

自己評価結果公表シート

2020年度

幼保連携型認定こども園

八戸の里幼稚園

1. 本園の教育目標

[情操豊かな思いやりのある子ども] を目指しています。

- ・豊かな情緒のもと自己を十分に発揮し、自分でものを考え、何でも自分で出来、やる気十分な子ども。
- ・他の人々と親しみ、支えあい、思いやり、生きていける子ども。
- ・身近な環境に親しみ、自然と触れ合うなかで情緒豊かで観察力を身につけた子ども。

2. 本年度重点的に取り組む目標

新型コロナウイルスの影響もあり、本年度は特に保育内容を確認する必要があると考えている。また、この機会に日常の健康と安全にも取り組んでいきたい。

3. 評価項目と達成状況

評価結果の表示方法

- A - 達成されている
- B - ほぼ達成されている
- C - 取り組まれているが、もう少し努力が望まれる
- D - 取り組みが不十分である

① 保育の内容

評価結果

1・幼児の生活が豊かになるような行事を考えている。	A
2・幼児の実態に合った行事を考えている。	A
3・幼児の興味や関心を考慮して保育を行っている。	A
4・指導計画がマンネリ化しないよう見直している。	B
5・幼児の実態に合わせて、自由に変更出来るような順応性のあるものになっている。	A

② 健康と安全

1・朝の登園時は、特に視診を大切にして幼児の体調が悪くないかを確認している。	A
2・体調が悪そうなときは、静かに寝かせたり検温するなどの処置をしている。	A
3・万一事故やケガが発生した場合は、園長に報告し、保護者に連絡を取り医師に診てもらうなど適切な処置を行っている。	A
4・クラスの中の換気や採光・室温などに気を付けている。	A
5・園内に危険な箇所がないかどうか、危険な遊びをしていないかなど、常に観察している。	A

4. 取り組み状況

新型コロナウイルスに関連して、子どもと子どもの距離の問題、保育室での密の問題等、試行錯誤しながら取り組んでいる。

安全については、毎年、月に一度安全の日を設け、遊具などの安全チェック、登園、降園時の交通指導などを行っている。

5. 総合的な評価結果

①保育の内容	—	A
②健康と安全	—	A

新型コロナウイルスの影響を受けながらも、実態に合わせた保育を行っていることは評価していいだろう。しかし、保育の中での距離の問題は難しく充分とは言えない。

6. 今後取り組むべき課題

新型コロナウイルスが終息しても、新しい日常で今回の取り組みがいかにかに生かせるかを考えていきたい。また、健康と安全についても継続して取り組みたい。

7. 学校関係者の評価

①保育の内容	—	A
②健康と安全	—	A

新型コロナウイルス対策という難しい問題の中で、子ども達の健康と安全を常に意識しながら取り組んで頂いていることは、評価出来ると思います。

学校関係者委員会名簿

NO. 3

小林 義人	保護者会会長
前川 和司	保護者会副会長
野中 裕美子	保護者会副会長
西口 麻衣子	保護者会会計
永井 恵美子	保護者会会計監査
岡田 万由	保護者会書記
園田 明美	保護者代表（元職員）
土山 佐代子	元職員
市川 洋子	キンダーカウンセラー